平成２２年度

年　　報

市立大町山岳博物館

目　　次

平成22年度の活動から…… 1

Ⅰ　資料収集・保存管理事業

1. 資料収集…… 2

(1) 新規収集資料

2. 資料保存管理…… 2

(1) 収蔵資料

(2) 所蔵図書

Ⅱ　調査研究事業

1. 調査研究…… 5

(1) 安曇地方の湿地植物における生活史の研究

(2) ライチョウ生息状況調査

(3) 爺ヶ岳におけるライチョウ生息域内の山岳気象観測

(4) 山岳文化創出業務

2. 共同研究及び調査研究の協力…… 6

(1) 食肉目の分子遺伝学及び寄生虫の研究

(2) コア・サイエンス・ティーチャー養成

Ⅲ　教育普及事業

1. 展示…… 7

(1) 常設展示

(2) 企画展示

(3) 特別展示

(4) 移動展示

2. 教育活動…… 10

(1) 学習会等の開催

(2) 学校との連携、融合

(3) 学芸員実習の受入

(4) 各種観察会・学習会の共催・協力

(5) 収蔵資料などの貸出

3．執筆・出版…… 15

(1) 執筆

(2) 出版

4．インターネット・ウェブサイト…… 18

(1) 公式ウェブサイト

(2) 安曇野アートラインウェブサイト

5．広報…… 18

(1) 大町博物館連絡会発行博物館めぐり案内図

(2) ポスター

6．友の会…… 18

(1) 組織

(2) 運営部

(3) 編集部

(4) 喫茶「こまくさ」の営業

(5) サークル活動

7．ライチョウ会議…… 21

(1) ライチョウ会議

(2) 第11回ライチョウ会議石川大会

8．ボランティア活動…… 21

Ⅳ　動植物飼育栽培繁殖事業

1. 動物飼育繁殖…… 22

(1) 飼育動物

(2) 傷病鳥獣保護

2. 植物栽培繁殖…… 23

(1) 栽培植物

Ⅴ　その他

1. 各種委員などの委嘱…… 24

2. アルペン動物園との友好提携協定の締結…… 24

3. 信州大学山岳科学総合研究所との研究協力協定の締結…… 24

Ⅵ　運営

1. 組織および職員構成…… 25

2. 協議会…… 25

3. 入館者状況…… 27

4. 平成21年度予算・決算…… 29

Ⅶ　関係条例・規則等

1. 市立大町山岳博物館条例…… 30

2. 市立大町山岳博物館規則…… 32

3. 大町市ライチョウ保護事業計画策定委員会設置要綱…… 34

Ⅷ　施設

1. 敷地面積…… 35

2. 本館建物…… 35

3. 付属施設…… 35

4. 本館平面図…… 36

5. 付属園の建物図…… 37

Ⅸ　利用案内…… 37

平成 22 年度の活動から

館 長　宮野 典夫

大町山岳博物館は、昭和 26 年に創立いたしました。当時は町村合併前であり、町政にて発足した博物館でした。初代館長は町長が兼務しており、その後、教育長の兼務館長を経て、専任館長へと変遷しています。歴史ある大町山岳博物館の第 14 代目の館長を平成 22 年 4 月に拝命いたしました。

今日まで、当館の運営や諸活動を進めるにあたり、ご指導・ご支援をしてくださいました多くの関係者の皆様に心より感謝申しあげ、これからもご指導たまわりますようお願い申しあげます。

平成 22 年度の企画展としましては毎年恒例となっている「動物写生画展」をはじめ「山と雷展」、「カモシカを育てる」、「キノコ展」を開催しました。また、特別展では「山岳パノラマ写真展」、「山岳同人四季写真展　我が心に映る山 - 山への誘い - 」を催したほかに、大町市役所の市民ホールでは「さんぱく☆ぎゃらりー」の展示や、学校での動物写真の展示を行いました。

教育普及の分野では、新たな取り組みとして、博物館で学校の授業をする試みをしました。ニホンカモシカのはく製資料を活用した説明にワークシートを補完して進めました。今後は内容をさらに充実させ、実施回数を増やしていきたいと思います。また、夏休み中に「こども夏期だいがく」を開講し、学芸員や専門員からの指導により、こどもたちが熱心に学習しました。これも今年度初めての試みです。

調査研究事業における「大北地域の湿地植物における生活史の研究」ではミズバショウやリュウキンカなどを対象に市民からの希望者と学芸員が協同で調査をして 2 年目となります。これらの研究成果は企画展に生かされることになっています。また、鹿島槍ヶ岳を中心とした登山史に関する資料の収集・未調査資料の掘り起こしなどを山岳文化創出事業として博物館友の会に委託して実施しました。餓鬼岳周辺のライチョウ調査では 2 年連続で繁殖の確認ができませんでした。

長野県山岳協会が平成 23 年度に創立 50 周年を迎えるにあたり、貴重な山岳図書資料を保存・活用するための建物を建設する提案をいただき、建設費の一部を寄附していただけることと、資料の寄贈の申し出をいただき、山岳図書資料館の建設と資料の受け入れの準備を開始しました。

6 月からは信州大学前副学長の小坂共栄先生をお招きし、専門員として地質部門を担当していただいています。職員一同これからも、より多くの皆様に、山と人とのかかわりの深さや、身近な生き物から高山の自然についての不思議を味わっていただける博物館を目指して努力してまいります。また、動物飼育を担当していた臨時職員の飯島志津飼育員が市の規定により平成 23 年 3 月をもって退職いたしました。お疲れ様でした。

末尾になりましたが、平成 22 年 3 月 11 日に発生いたしました東日本大震災、3 月 12 日の長野県北部地震により被害を受けられた皆様に心よりお見舞い申しあげますとともに、一日も早い復興と皆様のご健勝を心よりお祈り申しあげます。

Ⅰ　資料収集・保存管理事業

1．資料収集

(1) 新規収集資料

平成 22 年度の受け入れ資料は、寄附の申し出による下記の山岳関係 12 件 868 点、美術関係 1 件 1 点である。

№.	受入日	資　料　名	数量	寄贈者	住所
1	4 月 1 日	岩波文庫	30 点	個人	東京都杉並区
2	4 月 14 日	登歩渓流会会報ほか	550 点	個人	神奈川県川崎市
3	4 月 16 日	ピッケル・山岳書籍	64 点	個人	千葉県流山市
4	4 月 17 日	山岳書籍	11 点	個人	長野県須坂市
5	8 月 30 日	ピッケル・山岳書籍	19 点	個人	千葉県四街道市
6	10 月 9 日	山行写真アルバムほか	22 点	個人	神奈川県川崎市
7	10 月 5 日	登山靴（ﾌﾗﾝｽ・ｾﾑﾘｰ製）	1 点	個人	長野県大町市
8	10 月 6 日	衣類（被雷時着用）	5 点	個人	長野県大町市
9	11 月 14 日	山岳書籍（岩と雪）	91 点	個人	東京都世田谷区
10	11 月 20 日	山岳書籍	71 点	個人	東京都文京区
11	12 月 15 日	スキーポール	1 点	個人	長野県大町市
12	2 月 6 日	山岳画（油彩）	1 点	個人	山梨県韮崎市
13	3 月 21 日	山岳関係書籍	3 点	個人	長野県安曇野市

2．資料保存管理

(1) 収蔵資料

分類名および点数		自然科学系　　合計 11,562 点	
菌類(液浸標本)	129 点	哺乳類(剥製･骨格標本)	226 点
蘚苔類(乾燥標本)	674 点	鳥類(剥製標本)	625 点
維管束植物(液侵標本)	7 点	昆虫(標本ドイツ箱)	166 点
維管束植物(さく葉標本)	＊6,000 点	昆虫(未標本作製資料を含む)	＊1,002 点
魚類(液浸標本)	62 点	昆虫(液浸標本)	27 点
両生爬虫類(液浸標本等)	72 点	その他液浸標本(調査研究資料)	103 点
貝･甲殻類(液浸標本)	13 点	岩石･化石	＊2,456 点

分類名および点数		人文科学系　　合計 6,309 点	
山岳	4,481 点	寄託(山岳、美術)	505 点
美術	188 点	(寄託内訳)	
民俗	928 点	個人寄託 248 点	
歴史	49 点	個人寄託(ﾋﾟｯｹﾙ関係) 93 点	
考古	158 点	団体寄託 164 点	

①収蔵資料の点数

総計 17,871 点（平成 23 年 3 月 31 日現在）これらの資料点数については概数である。

②現状と課題

積極的な資料の収集計画、予算処置が明確にされておらず、現状として先方からの寄贈・寄託申し出に依存している。

a．自然科学系

本年度は地質分野の岩石、鉱物、化石の資料カードとＰＣ検索可能なリスト整備を行った。

動物（剥製）資料については資料カード（紙ベース）および最低限の検索・照会作業のＰＣ検索ができるように整理されているが、昆虫は未整理である。ただし、ガ類の展翅標本については採集者による同定まで行っている。

b．人文科学系

資料収集については、一次資料に関して未登録資料の新規追加登録作業を順次進めている。また、二次資料の整理も同様である。登録済み資料に関しても、資料情報の追記ほか、記録写真が未撮影のものや作図が未添付のものはそれらの作業を段階的に進めたい。当面の目標として受付台帳をもとにした収蔵資料目録の作成・刊行を目指す。

なお、山岳資料の収集については、これまで寄贈、寄託という型が主体であったが、近年継続して調査を実施している山岳文化創出事業、大町山岳文化研究会等の各種事業を通じて知り得た個人･団体所蔵の山岳資料について、積極的に寄贈をお願いし、資料の充実に務めている。

ｃ．管理保存

資料保存管理については、防虫剤をパラジクロロベンゼンからエンペントリンに代替中である。ただし、開放空間では空間体積に対して有効量に達しないために殺虫効果が低く、殺卵効果はないため、定期的なシフェノトリンによる簡易ガス燻蒸を展示室７回、収蔵スペース５回の実施をした。現在、資料の保存環境は好ましくない。ＩＰＭ(Integrated Pest Management)＝総合的有害生物管理に移行させるため、館内への有害昆虫類・塵などの侵入対策として、一部館入口扉の改良工事を今年度計画していたが、建物の耐震診断の結果をみてからの施行なり延期となった。展示ケースや収蔵スペースの床壁面を含め、気密性を持たせた保存環境空間の確保、あるいは全館規模での防塵・防虫対策など、施設面の抜本的な改善が急務である。

(2) 所蔵図書

①所蔵図書の点数

6,049 冊（平成 23 年 3 月 31 日現在）

3. （仮称）山岳図書資料館の建設並びに山岳図書資料の寄贈

(1) 経緯

平成 21 年 10 月、長野県山岳協会が平成 23 年度に創立 50 周年を迎えるにあたり、記念事業の一環として、貴重な山岳資料の散逸を防ぐため図書等の資料を収集し、大町市に寄贈するとともに、大町市が土地を手配し、山岳博物館隣接地に（仮称）図書資料館建物建設が可能かの相談が持ちかけられた。

これを受けて大町市としても山岳博物館都市宣言を標榜し、山岳資料の収集並びに教育普及活動に有益と考え、加えて同平成 23 年度が博物館創立 60 周年にあたることより、長野県山岳協会の意向をお聞きする中で、協議を重ね資料館建設の具体化に向け調整を行ってきた。

(2)山岳図書資料館建設にかかわる基本協定書の締結

平成 22 年 12 月 3 日、牛越徹大町市長と宮本義彦長野県山岳協会会長により（仮称）山岳図

書資料館の建設に関わる基本協定書の調印が行われた。この基本協定では、長野県山岳協会より図書資料及び金員の寄附を受け、山岳博物館の敷地内に（仮称）山岳図書資料館を建設することを定め、また市立大町山岳博物館創立 60 周年及び長野県山岳協会創立 50 周年の記念事業として実施することを定めた。資料館の建設は大町市が行い、資料館の建設並びに必要な設備にかかる経費の一部を長野県山岳協会が負担し、寄附の額については金 1,200 万円以上の資金を提供するを定めた。

また資料館の規模については、最大 30,000 冊の図書資料を収蔵可能な面積を有し、完成後の資料館の管理・運営については大町市が行うものと定めた。

(3)（仮称）山岳図書資料館の建設

協定書に基づき、建設候補地について選定が協議され、数箇所の候補地から、山岳博物館敷地内の講堂東側の敷地が建設予定地として定めた。また施設の概要としては延床面積は約 120 ㎡（約 36 坪）、鉄骨造二階建の構造、概算工事費として約 3,300 万円とした。

平成 22 年 12 月より図書資料館の設計委託の準備に開始し、翌平成 23 年 1 月 21 日に入札が行われ、（有）建築研究室夢香房が落札し、設計業務に取り掛かり、設計会社並びに山岳博物館、県山協との二回に亘って具体的な設計プランをもとに三者協議を行っていたところであるが、2 月末に突然の設計者の急逝により、あらためて設計委託の入札を行うことになった。

(4)山岳図書資料の寄贈

長野県山岳協会との協議の中で、県山協を通じて大町市に寄贈される山岳図書資料は、約 20,000 点を予定している。寄贈予定書の内訳としては、国内の山岳図書として、各山岳会年報・山岳研究報告書・登山計画書等、海外の山岳図書としてアルパインジャーナル・ヒマラヤンジャーナル・海外登山計画書及び報告書、登山技術文献として登山技術書などの寄贈が見込まれている。

今後は平成 24 年 4 月を目途とする図書資料館の開館に向け、図書資料館の設置要綱を始め、管理、閲覧を含めた運営方針、図書の資料整理、燻蒸、今後の教育普及方針の確定などについて、長野県山岳協会と協議の上で順次方針を進めていく。

Ⅱ　調査研究事業

1．調査研究

(1) 大地域の湿地植物における生活史の研究（担当：千葉悟志）

対象植物のミズバショウ、リュウキンカ、サワオグルマ、カキツバタ、コオニユリ、クサレダマ、エゾミソハギ、サワギキョウ、アカバナ、ミズオトギリの果実形態、種子散布型、種子数、種子形態の特徴の観察、発芽から開花個体に至るまでの形態変化の観察、開花時間、開花様式の観察および訪花昆虫の行動の観察を行い、アカバナおよびエゾミソハギは1年目、リュウキンカは2年目、サワオグルマは3年目で開花に至ることが明らかになった。いっぽう、3年目のミズバショウの実生、1年目のクサレダマ、サワギキョウおよびミズオトギリ、2年目のカキツバタは開花個体まで成長しないことが明らかになった。

この研究にあたっては平成21年1月に「大北地域の湿地植物の生活史研究グループ研究会」を発足させ、平成23年にその成果を発表することを目的に5人により植物の生活史や開花特性、結実特性、生物間関係などを解明する活動をしてきた。

	実施日	内　　容	参加者数
第31回	4月7日	ミズバショウとリュウキンカの観察　水温の測定	3
第32回	4月14日	ミズバショウとリュウキンカの観察　訪花昆虫の観察	5
第33回	4月16日	新潟県立植物園　視察	4
第34回	4月21日	ミズバショウとリュウキンカの訪花昆虫の観察	2
第35回	4月28日	ミズバショウの地下部の観察	6
第36回	5月13日	リュウキンカの訪花昆虫の撮影と水温の測定	3
第37回	5月14日	富山中央植物園　観察会	5
第38回	5月19日	実生形態および成植物の成長観察	5
第39回	6月2日	実生形態の成長観察	4
第40回	6月16日	カキツバタの開花様式と訪花昆虫の観察	3
第41回	6月22日	観察結果や課題の報告	5
第42回	7月16日	クサレダマの訪花昆虫の観察	3
第43回	7月28日	コオニユリ・サワギキョウ・ミスハギの訪花昆虫の観察	2
第44回	8月11日	エゾミソハギの短柱花探し	3
第45回	9月8日	アカバナの訪花昆虫の観察	4
第46回	9月15日	アカバナの訪花昆虫の観察	2
第47回	10月27日	まとめの会（第4回）今年観察した担当植物のまとめ	2
第48回	1月14日	まとめの会（第5回）今年観察した担当植物のまとめ	4
第49回	2月16日	まとめの会（第6回）今年観察した担当植物のまとめ	4

(2) ライチョウ生息状況調査（担当：宮野典夫）

平成21年6月の調査では餓鬼岳小屋南側で抱卵中のメス1羽の個体を確認したが、オスは確認できなかった。また、平成22年度の調査では餓鬼岳周辺での繁殖期間中の姿および生活痕が発見できず、直近で繁殖が確認できたのは北燕岳～燕岳間の燕岳寄りであった。

平成22年は6月26日～29日に一般公募した調査員4人と職員2人とで平成21年度と同じ

調査範囲で実施した。今年度も餓鬼岳周辺での姿、生活痕を発見することができなかった。また、直近での繁殖確認は昨年度より餓鬼岳に近い北燕岳の北側であった。

この 3 年間の調査で推測できることは、餓鬼岳でのライチョウ繁殖は安定的に推移していないことが判明した。また、燕岳の個体群と同一であれば個体数が増加したときは餓鬼岳を繁殖地とし、個体数の減少がみられれば、餓鬼岳での繁殖はないと考えられる。したがって餓鬼岳での繁殖の有無はこの個体群の個体増減の指標になるのではないかと考えられる。ただし、冬期については糞の分布状況からして、唐沢岳周辺を越冬地としていることがわかった。

(3) 爺ヶ岳におけるライチョウ生息域内の山岳気象観測（担当：清水博文）

平成 22 年 9 月 22 日よりライチョウの生息域である爺ヶ岳に温度・湿度・日射量を計測するデータロガを設置して観測を開始した。

(4) 山岳文化創出業務（担当：清水隆寿）

山岳文化創出事業遂行のため、大町山岳博物館友の会に当事業を委託し、専任者として宮澤陽美氏が選任され、本年は 2 年目の継続業務に当る。

初年度の 21 年は、鹿島槍ヶ岳を中心とした資料の収集・未調査資料の掘り起こし作業を実施し、『北アルプス登山史資料 1 鹿島槍ヶ岳登山史』作製の為の編集作業、データ入力作業、写真撮影、著作権承諾事務、校正作業を行った。

平成 22 年は、白馬三山周辺と爺ヶ岳～烏帽子岳周辺における登山史資料の未調査資料の掘り起こしを行い、平成 23 年度に資料集の刊行を行う。

また明治から昭和初期に行われた上記の山域における登攀史について検証するため、大町山の会ほかの協力を得て、年間を通じた同山域の写真撮影、聞き取り等を実施し、山岳環境及び登山史ルートの現地検証調査を行った。

2. 共同研究及び調査研究の協力

(1) 食肉目の分子遺伝学及び寄生虫の研究（担当：宮野・清水博文）

北里大学との共同により、食肉目イヌ科、イタチ科、ジャコウネコ科の分子遺伝学的、形態学的、食性、内部寄生虫の解析を行うため、交通事故等で死亡した個体を収集した。ホンドタヌキ 23 個体（平成 21 年度 37 個体）、ホンドギツネ 4 個体（同 6 個体）、ハクビシン 12 個体（同 16 個体）、テン 1 個体（同 1 個体）、ニッポンアナグマ 0 個体（同 2 個体）であった。なお、解析は現在進行中である。

(2) コア・サイエンス・ティーチャー養成（ＣＳＴ）（担当：小坂共栄）

ＣＳＴ養成拠点事業は子どもの「理科離れ」が指摘されている中で、理数系中核教員＝ＣＳＴの育成をめざすため信州大学と長野県教育委員会が平成 22 年から取り組みを開始し、現職教員のスキルアップのためのプログラムや教材の制作などを進めるものである。

今年度は大北地域の理科研究会の会合に出席し、ＣＳＴ事業の意義や目的、具体的事業内容等について解説し、理解を深めてもらった。また、大北地域内の小中学校毎に、野外での理科教材発掘のための調査を実施した。

Ⅲ　教育普及事業

1．展示

(1) 常設展示

①展示テーマおよび展示資料点数　総計 1,439 点（平成 23 年 3 月 31 日現在）

内訳（自然科学系　合計 623 点、人文科学系　合計 816 点）

展示テーマ	資料点数	展示テーマ	資料点数
3F 展望室		1F　ホール・特別展示室	
「北アルプスの展望」コーナー	計 4 点	「山と芸術」コーナー	計 61 点
2F　第 2 展示室　※1		絵画　※2	21 点
「山岳の自然」コーナー	計 623 点	その他	19 点
北アルプスのかたち	24 点	ピッケル	21 点
2F　第 2 展示室　※1　続き		1F　第 1 展示室	
北アルプスの生いたち	80 点	「山と登山」コーナー	計 749 点
里山から高山までの生物	235 点	北アルプスの登山史	322 点
ライチョウ	7 点	北アルプスの山小屋	46 点
さわれる剥製	5 点	登山の道具	152 点
渓谷の生物	35 点	遭難	57 点
湖の生物	60 点	エベレスト周辺の地形模型	39 点
湿原の生物	55 点	日本人の海外登山	108 点
剥製ライブラリー	102 点	山のコラム	25 点
パレットライブラリー	20 点		

※1 一次資料のほか、一部写真パネルなど含む。

※2 絵画作品については、特別・企画展開催の際は展示替えのため公開していない。

(2) 企画展示

①動物写生画展（担当：清水隆寿）

a．**会　期**：平成 22 年 6 月 19 日(土)～7 月 25 日(日)　開催日数：35 日

b．**会　場**：講堂（入場無料）

c．**概　要**：春の動物写生大会に参加した園児、児童・生徒が描いた博物館付属園内の動物や風景の絵画を展示した。5 月 20 日（木）に市内小中学校の先生を審査員として 33 点、博物館職員の審査による特別賞を 9 点選出し、写生画表彰式（場所：講堂）を 6 月 20 日(日)に行った。

d．**主な展示資料**：園児、児童・生徒による絵画全作品、107 点

f．**入館者**：推計 250 名（無料）

g．**所　見**：地域の子供向けの企画展であるが、絵画作品のほかに、付属園で飼育中の動物や付属園の役割などについて写真・説明パネルによって紹介した。これにより、付属園でのカモシカの保護・繁殖事業や野生動物の救護活動について市民などに広く知る機会となった。

②山と雷展（担当：清水博文）

a．**会　期**：平成 22 年 9 月 4 日(土)～26 日(日)　開催日数：20 日

b. **会　場**：特別展示室・ホール
c. **協　力**：長野県松本深志高等学校・種池山荘・(財) 電力中央研究所・日本大気電気学会
d. **概　要**：雷による遭難とはどのようなものかについて、実物の資料を展示し、解説した。
e. **展示資料**：写真 7 点、解説パネル 16 点、遭難資料 17 点、岩石 23 点。
f. **入館者**：1,104 人（有料 1,046 人、無料 58 人）
g. **所　見**：雷発生のメカニズムや危険性についてなど、雷についての基礎知識を紹介したほか、落雷による被害とはどのようなものかについて、実物の資料により理解していただけた。雷についての基礎知識を持つことは、落雷事故に遭わないことにつながることから、観覧者の登山活動の安全に寄与した。
h. **関連イベント**：講演会（：企画展に併せて 9 月 5 日(日)に講演会「登山と雷」を開催している。講師：城所邦夫さん（山岳気象アドバイザー)。参加者は 23 人。

③カモシカを育てる（担当：宮野典夫）

a. **会　期**：平成 22 年 7 月 3 日（土）～8 月 29 日（日）
b. **会　場**：特別展示室・ホール
c. **概　要**：山岳博物館で出産、あるいは幼体で保護されたニホンカモシカ（平成 17 年の人工哺育個体愛称「岳」、平成 18 年の人工哺育個体愛称「さつき」「わかば」「オタリ」「ハクバ」、平成 20 年の母親による哺育個体愛称「クロベ」、平成 22 年の哺育個体愛称「れんげ」の哺育の様子と成長経過をパネルと飼育用具の実物で紹介するとともに、出産、授乳、遊び、休息の動画と当年出産した個体の写真を毎日更新し、テレビで紹介した。
d. **展示資料**：写真 61 点、解説パネル 4 点、飼育用具 7 点、はく製 1 点、映像 5 点
e. **入館者**：4,768 人（有料 4,511 人、無料 257 人）
f. **所　見**：飼育に用いた用具の実物を見ていただき、博物館でのニホンカモシカの飼育や傷病救護の様子を写真や動画によって知っていただくことができた。

④キノコ展（担当：千葉悟志）

a. **会　期**：平成 22 年 9 月 25 日(土)～26 日(日)　開催日数：2 日
b. **会　場**：講堂（入場無料）
c. **概　要**：パネルを用いてキノコの正体の紹介および今年採れた生のキノコの展示。
d. **関連イベント**：キノコ学習会
e. **入館者**：. **所　見**：今年は 140 種のキノコを展示することができた。

(3) 特別展示

①山岳パノラマ写真展（担当：千葉悟志）

a. **会　期**：平成 22 年 4 月 24 日(土)～5 月 30(日)　　開催日数：29 日
b. **会　場**：特別展示室・ホール
c. **後　援**：長野朝日放送株式会社
d. **概　要**：登山好きな仲間たちが、撮りためた写真をもとに見渡せるような“大きなパノラマ写真”をコンセプトに制作。作品数おおよそ 15 点。大きさだけでなく、高画質・高解像度を追求し、さらにそれらを扇状のディスプレイにすることで、より迫力のある眺望を表現している。
f. **入館者**：2,938 名（有料 2,622 名、無料 316 名〈うち招待者 138 名〉）
g. **所　見**：単に大きく引き伸ばしただけではなく、高画質・高解像による作品をさらに扇形で表現したところが新しい展示方法であった。期間中に開催したギャラリートークでは、来

館者がパノラマで写真を撮る楽しさや、処理方法について学び、登山の新たな楽しみを提供できた。また、この展示をきっかけに作品は長野県をＰＲするキャラバンにも使用されることになった。

ｈ．**関連イベント：**ギャラリートーク（赤津嘉崇さん・飯島千加江さん・大西力夫さん）
5月2日（日）　13：30～15：00（場所：展示会場）参加者20名

②山岳同人四季写真展　我が心に映る山　- 山への誘い -　（担当：宮野典夫）

a．**会　期**：平成22年10月3日(日)～11月28日(日)　開催日数：48日

b．**会　場**：特別展示室・ホール

d．**概　要**：山をテーマに撮影している集団である山岳同人四季の会員によるカラー作品、モノクローム作品、山の花の3コーナーで構成し、美しい日本の山を表現した。

e．**展示資料**：写真67点

f．**入館者**：2,940人（有料2,683人、無料257人）

g．**所　見**：ギャラリートークは作品と作者の距離を縮める有効な方法であると感じた。

h．**関連イベント**：
ギャラリートーク（宮崎典代さん・林朋房さん・大石高志さん）
10月31日(土)13：00～15：15（場所：展示会場）
「山岳写真の魅力」、「高山植物の撮影」、「モノクローム写真の魅力」について作品解説、撮影時のエピソードなどについて語っていただいた。参加人数19人。

(4) 移動展示

①さんぱく☆ぎゃらりー「アニマルウォッチング」（担当：飯島・小嶋・戸谷）

a．**会　期：**平成22年7月12日(月)～7月30日（金）（19日間）
平成22年10月18日(月)～11月10日（水）（23日間）
平成23年3月7日（月）～3月25日（金）（19日間）

b．**場　所：**市役所市民ホール

d．**概　要**：飼育員だからこそ撮影できる動物たちの写真および撮影秘話を各回とも１８点の写真を展示した。1回目は博物館で開催中の企画展「カモシカを育てる」への誘導を促すため、平成21年生まれのニホンカモシカの赤ちゃん、2回目は飼育の仕事と飼育員紹介、3回目はニホンカモシカ「れんげ」の成長記録の特集を組んで展示をした。

②ふぞくえんがやってきた！！

a．**会　期：**平成22年5月24日(月)～6月13日(月)

b．**会　場：**美麻小中学校

c．**概　要：**博物館で飼育している動物たちの写真を通して、子供たちに大町市に生息する野生動物を身近に感じていただき、野生動物に対する新たな疑問や知識の向上を目的として、二階渡り廊下壁面にA4サイズの写真4枚とクイズ形式のめくりパネルを合わせて16枚を展示した。

③「第６回　安曇野アートライン美術館展」（担当：清水隆寿）

a．**会　期**：平成22年11月20日(土)～12月23日(木・祝)

b．**会　場**：国営アルプスあづみの公園 テーマ展示館 多目的ホール（安曇野市）

c．**概　要**：安曇野アートライン推進協議会に加盟する美術館・博物館所蔵の作品や、各館の紹介パネルなどを展示。公園の来館者に安曇野のアートにふれていただいた。大町市からは牧潤一作の「Mt.Everest,8848m」「Manaslu,8163m」「Mont Blanc,4807m」「Matterhorn,4478m」

の 4 点を出品した。

④「雪形写真・切り絵展」（担当：清水隆寿）

第９回北アルプス雪形まつりに併せて、山岳博物館では実行委員会に加わり、雪形ウォッチング部門の展示及び企画を担当した。

a．会　期：平成 21 年 5 月 8 日(土)～5 月 23 日(日)　開催期間：16 日間：

b．会　場：キャラリーい～ずら(二階展示場)

c．概　要：雪形写真パネルの展示と雪形ビデオ上映をし、大町民話の里づくりもんぺの会による雪形山岳模型を展示した。大町水絵会会長・羽田智千代さんの講師により雪形版画展を実施した。また期間中、雪形講演会として 5 月 9 日(日)には、駒ヶ岳ファンクラブの田口計介さんによる「全国の駒・馬の雪形－駒ヶ岳とは－」(参加人数 20 人)、5 月 16 日(日)には、安曇野雪形研究会の宮澤洋介さんによる「地形・地質からみる雪形の成り立ち」と関悟志さんによる「北アルプスの雪形伝承」(参加人数 30 人）の講演会が行なわれた。期間中の各土・日曜日には、北アルプス各地の雪形現地見学会・雪形ウォッチングを実施(5 回・56 人参加)した。

2．教育活動

(1)学習会等の開催

①付属園スタンプラリー（担当：飯島・小嶋・戸谷）

a．開催日：平成 22 年 4 月 24 日(土)～5 月 5 日(水)（11 日間：うち 2 日は時間短縮）

平成 22 年 7 月 17 日(土)～8 月 16 日(月)の土・日曜・祝日、8 月 13 日～16 日は毎日開催（16 日間：うち 1 日は雨天中止、2 日は時間短縮）

平成 22 年 10 月 30 日(土)～11 月 3 日(火)（4 日間：うち一日は雨天中止）

b．場　所：付属園

c．参加者数：4 月 24 日～5 月 5 日：591 人

7 月 18 日～8 月 16 日：329 人

10 月 31 日～11 月 3 日：28 人

d．概　要：付属園内の数カ所に、職員手作りのオリジナルスタンプを設置し、動物を観察しながらスタンプを探して集め、全てスタンプを集めた参加者には、参加記念として特大スタンプを押印した。

e．所　見：ゲーム感覚で参加できることで、子供はもちろん大人の方にも楽しんでいただくことができた。恒例のイベントとして定着してきたことで、毎回楽しみにしてくださるリピーターの方がいた。また手作りのスタンプには高評価をいただいた。

②春の動物写生大会（担当：清水隆寿・飯島・小嶋・戸谷))

a．開催日：4 月 24 日(土)～5 月 5 日(水)(11 日間)

b．場　所：付属園

c．共　催：日本動物園水族館協会中部ブロック

c．協　力：荒井泰三（写生指導・敬称略）

d．参加者数：107 人（園児 20 点、小学生 84 点、中学生 3 点）

f．概　要：市内や周辺の幼稚園・保育園の園児、小・中学校の児童・生徒を対象にした付属園の動物や園内風景を画題とする写生大会。動物に親しみながら写生を楽しむ機会を提供し、

毎年好評である。

e. 所　見：天候が定まらなかったこともあり、参加人数が例年よりも少なくさびしいものになった。授業の一環として参加しているものを除くと、期間中の個人的な参加は約半数の 50 人程度となる。参加チラシも児童、生徒総てに配布してご覧頂いているなかで、参加数を増やすことはかなり厳しい状況にある。

h．関連イベント：「アニマルウォッチング」では写生の参考になるよう動物の体の特徴的な部分などを写真と、通路からは観察が難しい動物の体の部分の写真を使って解説し、クイズ形式のめくりパネルを会期中、講堂に展示した。

③動物観察ツアー（担当：清水博文・飯島・小島・戸谷）

a. 開催日：4 月 24 日(土)～5 月 5 日(水)(11 日間)

b. 場　所：付属園

d. 参加者数：152 人（小人 29 人、大人 120 人）

f. 概　要：飼育員や学芸員が付属園の動物を解説し、生物や環境への理解を高め、傷病鳥獣の救護の現状などを解説した。

④小鳥の声を聞く会（担当：清水博文）

a. 開催日：平成 22 年 5 月 9 日(日)

b. 場　所：山岳博物館から鷹狩山山頂

c. 講　師：腰原正己さん・鳥羽悦男さん・長澤修介さん

d. 共　催：信州野鳥の会　・協　力：山岳博物館友の会

e. 参加者数：大人 24 人　子供 6 人　計 30 人

f. 概　要：野鳥を中心とした自然観察会を信州野鳥の会と合同で開催、山岳博物館友の会の協力を得て実施した。観察した鳥類は合計 41 種。サンショウクイ・アオゲラ・シジュウカラの営巣活動のほか、今回新たにキバシリを観察した。この観察会は、今回で 30 回（観察記録が残されているもの）を数え鷹狩山での野鳥の生息動態に関する調査記録を蓄積した。このような調査を継続することにより重要な資料が得られる。

⑤こども夏期だいがく（担当：清水博文）

a. 開催日：8 月 14 日（土）・15 日（日）

b. 場　所：展示室・講堂

c. 参加者数：20 名（動物の赤ちゃん：4 人・昆虫のひみつをみつけよう：6 人・化石をほり出そう：6 人・山と人との関わり：2 人・植物-花のふしぎ：2 人）

d. 概　要：小学生を対象とした動物、昆虫、植物、化石、登山史の楽しい学習会とした。

e. 所　見：各担当職員により、夏休みの自由研究をサポートする内容で実施したが、開催日が他の行事と重なったこと、広報不足などがあり参加者が少ない結果となった点を改善する必要がある。

⑥夜の飼育動物見学会（担当：清水博文・飯島・小嶋）

a. 開催日：8 月 21 日(土) 19：00～20：00

b. 場　所：付属園

c. 参加者数：21 人

d. 概　要：普段入ることができない閉園後の付属園内での飼育動物観察会を行なった。

e. 所　見：園内の段差など危険箇所にはあらかじめ蛍光塗料を塗り、安全確保のためのスタッフ配置などしたが、根本的な改善が望ましいと感じた。昼間とは違った動物たちの行動を見ることで身近な野生動物についての関心が深まった。

⑦キノコ学習会（担当：千葉）

a．開催日：平成 22 年 9 月 26 日(土)

b．場　所：山岳博物館から鷹狩山周辺

c．講　師：飯島八郎さん・高野哲哉さん・清沢由之さん

d．参加者数：大人 23 人　子供 2 人　計 25 人

e．概　要：参加者を 2 班に編成し、観察を行った。キノコ等を通して自然の仕組みと付き合い方を考えることを目的として実施した。なお、学習会への参加者は「広報おおまち」「タウン情報」から情報を得ていることがわかった。

⑧「消しゴムスタンプを作ろう」実践教室（担当：飯島・戸谷）

a．開催日：10 月 30 日(土)

b．場　所：講堂

c．参加者数：6 人（3 組）

e．概　要：「ふぞくえんスタンプラリー」で使われている“消しゴムスタンプ”を参加者自身で作成していただき、付属園や飼育動物への関心をさらに高めていただいた。

⑨親子探鳥会(冬鳥の観察会)（担当：清水博文）

a．開催日：平成 22 年 12 月 12 日(日)

b．場　所：木崎湖周辺

c．講　師：腰原正己さん・鳥羽悦男さん・長澤修介さん（敬称略）

d．参加者数：大人 10 人　子供 3 人　計 13 人

e．概　要：観察コースは昨年と同じく、木崎湖南端より湖の東側遊歩道を通り、稲尾沢までを往復した。この時期としては、時折日も差し込み天候に恵まれた観察会であった。記録した鳥類はオオバン・キンクロハジロ・ホオジロガモ・ヒドリガモなど例年記録のある 25 種であった。

⑩「松ぼっくりツリーをつくろう」（担当：小嶋・戸谷）

a．開催日：12 月 11 日(土)13:00～15:00

b．場　所：講堂

c．参加者数：大人 3 名 子供 5 名

d．概　要：付属園内に落ちている松ぼっくりを有効利用して、来場者にオリジナルのクリスマスツリーの製作に取り組んだ。

e．所　見：来場者の方には松ぼっくりツリーを手作りで楽しみ、またお気に入りの動物を見つけていただくことでその動物により関心が深まった。

⑪大町山岳文化研究会

同研究会は、山岳博物館友の会を主体にして広く一般市民の方々にも参加を募り、「山岳」にテーマに置き、北アルプスの登山史や地形・地質、雪形や現在の登山が抱える課題、自然保護など広範な人文・自然科学といった学問を横断して、会員みずからが地域を考え、互いに学習を深め生涯学習を推進していく場として、平成 20 年 7 月より活動を開始した。

概ね月 1 回、月半ば頃の水曜日、午後 6 時～8 時を目安に実施。平成 23 年 3 月現在、会員 22 名で活動している。以下は、本年度の活動内容の要旨である。

	実施日	内　　容	参加者
第 24 回	4 月 14 日	北アルプス山小屋調査について、「山岳と絵画」について	11
第 25 回	5 月 19 日	北アルプス山小屋調査について、「山岳と絵画」について	12

	実施日	内　　容	参加者
第 26 回	6 月 23 日	北アルプス山小屋調査について　第一回調査報告会	11
第 27 回	7 月 22 日	北アルプス山小屋調査について　第二回調査報告会	10
第 28 回	8 月 25 日	北アルプス山小屋調査について　第三回調査報告会	8
第 29 回	9 月 22 日	北アルプス山小屋調査について　第四回調査報告会	9
第 30 回	10 月 20 日	第五回調査報告会	11
第 31 回	11 月 17 日	第六回調査報告会	12
第 32 回	12 月 17 日	第七回調査報告会　来年度の調査予定について	9
第 33 回	1 月 19 日	第八回調査報告会　来年度の調査予定について	9
第 34 回	2 月 16 日	第九回調査報告会　来年度の調査予定について	8
第 35 回	3 月 16 日	第七回調査報告会　穂高山域を中心とするビデオ鑑賞会	10

（２）学校との連携、融合

期日	内容(館外の場合:実施場所)	対象校・学年など	人数	担当
5 月 12 日	生き物の学習、動物の描写	大町東小 2 年	45	飯島・小嶋
5 月 21 日	遠足見学	大町北小 3 年	74	宮野・清水隆寿
5 月 31 日	自然観察会(旧農具川)	大町東小 3 年	43	清水博文
6 月 3・4日	職業体験学習	八坂中 2 年	2	飯島・小嶋・戸谷
6 月 9 日	自然観察会(青木湖)	大町西小 5 年	65	清水博文
6 月 11 日	職業体験学習	仁科台中支援学級 2 年	1	宮野
6 月 18 日	職業体験学習	仁科台中支援学級 2 年	1	小坂
6 月 24 日	自然観察会(青木湖)	池田小学校 5 年	42	清水博文
7 月 2 日	職業体験学習	仁科台中支援学級 2 年	1	千葉
7 月 6 日	自然観察会(木崎湖)	大町南小 5 年	76	清水博文
7 月 9 日	職業体験学習	仁科台中支援学級 2 年	1	宮野
7 月 12 日	登山事前学習会	大町第一中 2 年	125	清水博文・千葉
7 月 15・16 日	職業体験学習	美麻中1・2 年	2	飯島・小嶋・戸谷
7 月 16 日	職業体験学習	仁科台中支援学級 2 年	1	清水隆寿
7月 21 日	自然観察会(旧農具川)	大町東小 3 年	43	清水博文
7 月 21・22 日	登山学習(五龍岳)	大町高校	60	千葉
7 月 23 日	職業体験学習	仁科台中支援学級 2 年	1	清水隆寿
7 月 27 日	野外学習事前学習(大町高)	大町高校 1 年生	35	千葉
8 月 3 日	野外実習(親海湿原)	大町高校 1 年生	35	千葉
8 月 20 日	職業体験学習	仁科台中支援学級 2 年	1	清水博文
8 月 27 日	職業体験学習	仁科台中支援学級 2 年	1	飯島・小嶋
9 月 1 日	職業体験学習	仁科台中支援学級 2 年	1	清水博文
9 月 2・3 日	職業体験学習	大町第一中 2 年	4	清水博文・小嶋・飯島
10 月 13・14 日	職業体験学習	仁科台中 2 年	4	清水隆寿・飯島・小嶋
11 月 26 日	理科授業	大町南小学校 4 年	65	宮野・清水博文
12 月 14 日	職場体験学習	大町北高校	4	清水博文・千葉

期日	内容(館外の場合:実施場所)	対象校・学年など	人数	担当
2月 10 日	総合的な学習(北小)	大町北小 6 年	88	宮野
1 月 18 日	社会科授業	大町南小学校 4 年	65	清水隆寿
2 月 25 日	社会科授業	大町東小 4 年	44	清水隆寿
実施回数:29 回		学校数:11 校	人数合計:930 人	

(3) 学芸員実習の受入（調整：宮野）

期　日	実 習 者	人員	担当
9 月 15 日～25 日（10 日）	東京農業大学農学部農学科 4 年 東海大学農学部応用動物科学科 4 年	2 人	宮野・降旗・清水博文・清水隆寿、千葉

学芸員実習は博物館における実践的な側面の学習を主眼におき、山岳博物館では 10 日間の実習を原則としている。本年は２名を受け入れ、受付業務、資料整理、教育普及等の実習を行い、特にキノコ展の準備等の実習では多くの時間を実習にあてた。

(4) 各種観察会・学習会の共催・協力（調整：宮野）

期日	内容(館外実施場所)	主 催	参加者	担当
5 月 3 日	自然観察会(居谷里)	文化財センター	40人	千葉悟志
5 月 9 日	ふくろうプログラム	山博友の会	30 人	清水博文
5 月 8 日～23 日	雪形のある風景写真・版画展(ギャラリーいーずら)	北アルプス雪形まつり実行委員会	約 400 人	清水隆寿
5 月 9 日	雪形講演会　講師:田口計介	北アルプス雪形まつり実行委員会	20 人	清水隆寿
5 月 16 日	雪形講演会　講師:宮澤洋介・関悟志	北アルプス雪形まつり実行委員会	30 人	清水隆寿
5 月 8・9・15・23・24 日	雪形ウォッチング(市内～南・北安曇郡内)	北アルプス雪形まつり実行委員会	56 人	清水隆寿
5 月 23 日	第 9 回北アルプス雪形まつり(大町市文化会館)	北アルプス雪形まつり実行委員会	約 350 人	清水隆寿
6 月 12・13 日	長野県植物研究会研究発表	長野県植物研究会	18 人	千葉
7 月 12 日	公民館講座(平公民館)	平公民館	22 人	千葉
7 月 25 日	昆虫観察会	児童クラブ	44 人	清水博文
8 月 21 日	アートライン夜のミュージアム	アートライン推進協議会	8 人	清水隆寿
8 月 25 日	親子教室ともだち広場	常盤公民館	36 人	小嶋・降幡
8 月 28 日	アートライン夜のミュージアム「ハープと憩う～素敵な時間」	アートライン推進協議会 大町市文化会館	60 人	清水隆寿
9 月 9 日	美麻公民館高齢者学級	美麻公民館	30 人	小坂
9 月 19 日	自然観察会	大町公民館	11 人	清水博文
11 月 2 日	ﾗｲﾁｮｳ会議石川大会(金沢市)	ﾗｲﾁｮｳ会議石川大会実行委員会	244 人	清水博文
3 月 1 日	出張講座(フォッサマグナの生い立ちと魅力)	合同庁舎	50 人	小坂
参加者数合計　約　1,449 人				

(5) 収蔵資料などの貸出（調整：宮野）

期　日	用途	貸出先	貸出資料
4 月1日～	教育普及用	新潟県	ライチョウ剥製 2 点
	常設展示用	京都市動物園	カモシカ骨格標本 2 点
	常設展示用	富山市科学文化センター	ライチョウ剥製 1 点
5 月19 日～8 月 15 日	企画展示用	京都府[アサヒビール大山崎山荘美術館]	加賀正太郎使用(ユングフラウ)ピッケル他 6 点
6 月 26 日～7 月 4 日	企画展示用	岐阜県[半原版画館]	二村氏作ピッケル 11 点
22 年 12 月 7 日～23 年 3 月 2 日	企画展示用	千葉県[千葉県立美術館]	不破章絵画　2 点
23 年 3 月 11 日～3 月 16 日	写真撮影ならびに画集掲載用	山梨県[日本山岳画協会]	足立源一郎作油彩画　1 点
23 年 3 月 10 日～4 月 30 日	分析･観察用	長野県[信州大学理学部]	仏崎採集岩石　8 点

このほかにも多数の各種照会や報道機関・雑誌編集社などによる取材や資料撮影・閲覧などがあり、随時これらに協力した。

3. 執筆・出版

(1) 執筆

①大糸タイムス連載「山博ゼミ」（調整：宮野）

平成 15 年 3 月から地元新聞へのシリーズで隔週土曜日に連載。北アルプス山麓から山頂の自然あるいは登山の歴史などについて、隔週土曜日の地元新聞紙面にて紹介している。

展示や講座では紹介しきれない内容やタイムリーな事柄も地域の方々に向けて効果的に情報発信することができている。また、記名記事であることから博物館職員の“顔”が見えるということで市民から好評を得ている。

231 号をもって、一時お休みをいただく。

掲載月日	回	執筆者	題　　名
4 月 10 日	209	宮野典夫	展示の裏舞台　-ハク製のポーズ-
24 日	210	清水博文	ムササビの巣
5 月 8 日	211	宮野典夫	展示の裏舞台　-ライチョウのハク製-
22 日	212	清水隆寿	加賀正太郎　ヨーロッパアルプスを登る
6 月 5 日	213	清水博文	マグソクワガタ
19 日	214	千葉悟志	帰化植物⑤　ブタナ
7 月 3 日	215	飯島志津	「オタリ」のマイペース育児
17 日	216	宮野典夫	展示の裏舞台　-野鳥の声-
7 月 31 日	217	千葉悟志	帰化植物⑥　オオカワジシャ
8 月 14 日	218	清水隆寿	狩猟と鉄砲
28 日	219	千葉悟志	帰化植物⑦　オオアワダチソウ
9 月 11 日	220	千葉悟志	帰化植物⑧　ヘラオオバコ

掲載月日	回	執筆者	題　　名
10 月 9 日	221	清水博文	スズムシ
23 日	222	小嶋健太	カモシカ赤ちゃんの成長記　～感情の芽生え～
11 月 6 日	223	清水博文	クロツバメシジミとツメレンゲ
20 日	224	清水隆寿	戦争と登山　～ピッケルを銃に持ち代えて～
12 月 4 日	225	宮野典夫	展示の裏舞台　-三匹のキツネ-
18 日	226	清水隆寿	ヒマラヤへのふたつの道 ～山川勇一郎らのシュガール･ヒマール探査隊～
1 月 15 日	227	戸谷諭美	あるモズの越冬
28 日	228	宮野典夫	展示の裏舞台　-走るタヌキ-
2 月 12 日	229	宮野典夫	展示の裏舞台　-大町では珍しい鳥-
26 日	230	清水隆寿	スキーの誕生　～発祥百周年～
3 月 12 日	231	宮野典夫	山博ゼミを振り返って

②とうげの旗連載「大町山岳博物館【四季の窓から】」（調整：宮野）

「とうげの旗」は信州児童文学会が親子で読みあう雑誌として発行し、科学的な読み物を掲載してきた。平成 21 年 9 月（152 号）から博物館の職員が担当することとなった。

掲載月日	号数	執筆者	題　　名
平成 21 年 9 月 20 日	152	千葉悟志	フクジュソウ　昆虫との関係
11 月 30 日	153	清水博文	擬態
2 月 10 日	154	宮野典夫	冬のライチョウ
平成 22 年 6 月 20 日	155	千葉悟志	ササユリとガの関係
9 月 20 日	156	小坂共栄	むかしむかし、長野県にも住んでいた 「シンシュウゾウ」のおはなし
11 月 30 日	157	清水博文	ホタル
平成 23 年 2 月 10 日	158	宮野典夫	ライチョウの巣作り

（2）出版

①新規出版物

a．展示解説情報シート

常設展示に関して､展示解説パネルでは紹介しきれない情報を項目ごとにまとめた A4 判のカラー版。館内にて 1 部 30 円で販売しており、今年度は 464 部の利用があった。

b.『山と博物館』（担当：降旗・清水隆寿）

昭和 31 年 2 月に『やまと博物館』として創刊（昭和 32 年 1 月『山と博物館』に改題）。毎月、多分野の方々に原稿を寄せていただき、北アルプスを中心とした山岳の自然や歴史などの「山岳文化」と博物館の活動について広く情報発信を続けている。毎月 25 日発行、発行部数 1,000 部。体裁 A4 判、二ツ折 4 頁、単色刷り。定価 100 円。年間購読料 1,500 円（送料含む）。

平成 23 年 3 月 31 日現在、購読者数 459 名。内訳は市内 103 人（有料 5 人、無料 28 人、友の会 70 人）、市外 356 人（有料 19 人、無料 255 人、友の会 82 人）

56 巻 3 号については 3 月 11 日の東日本大震災の直後で、市民の意識が高かったため、増刷して市内各戸配布した。

巻号	月	頁	題　　名	著者名
55 4	4 月	①	山岳パノラマ写真展に寄せて	大西力夫
			山岳パノラマ写真の撮影　製作　思い	赤津嘉崇
		②～③	あの日、あの時　モノクロームのアルバムから	丸山隆士
		④	登山人形　木彫りの農民美術品	〃
55 5	5 月	①	大町に飛来したコウノトリ	鳥羽悦男
		②～③	コウノトリの餌場づくりに挑戦	佐竹節夫
		④	追悼　柳澤昭夫全館長 -無償の戦いに魅せられて-	松原繁
55 6	6 月	①	二村善一氏製作のピッケル	清水隆寿
		②～④	ピッケルの誕生は多くの偶然が重なることから始まった	柳澤昭夫
55 7	7 月	①	夏の思い出	山口憲夫
		②～④	山川勇一郎さんとBush山の会の出会い	峯村隆　他10名
55 8	8 月	①	ニホンカモシカの繁殖	宮野典夫
		②～④	ニホンカモシカを育てる	〃
55 9	9月	①	山における落雷遭難事故とその対策	城所邦夫
		②～④	企画展 「山と雷」に寄せて 落雷の発生と山での対策	〃
55 10	10月	①	写真展によせて	宮崎典代
		②	「山と写真」に魅せられて	〃
		③	「山の花」の撮影	林朋房
		④	モノクロームは写真の原点	大石高志
55 11	11月	①	「鍋倉山・巨木の森」	増村征夫
		②～④	長野県におけるブナの地理的変異	小山泰弘
55 12	12月	①	金峰山のライチョウ	宮野典夫
		②～④	トイレ考	長澤武
56 1	1 月	①	山を見て時の流れを考える	小坂共栄
		②～④	歯の形態からみる生物多様性	子安和弘・曽根啓子
56 2	2月	①	登山で思いつくこと	大谷友彦
		②～④	信州・北アルプスの火山の生い立ち	高橋康
56 3	3月	①	動物と飼育員	飯島志津
		②～⑥	フォッサマグナと大町	小坂共栄

c．**年報**（担当：宮野）

『平成21年度年報』（発行日：平成23年1月31日、発行部数：200部、体裁：A4判、42頁、単色刷り）を編集・発行した。

.**②販売中の出版物**

現在、販売中の当館編による出版物は以下の通り。（平成23年3月31日現在）

書　名	発行先	発行年	備　考
山と博物館	大町山岳博物館	毎月25日	年間購読、館内販売
展示解説情報シート	大町山岳博物館	随時更新	館内にて販売中

書　名	発行先	発行年	備　考
北アルプスの自然と人(展示案内書)	大町山岳博物館	平成 17 年	〃
H21 企画展 高山の自然は今…	大町山岳博物館	平成 21 年	〃
H20 企画展 カブトムシとクワガタムシ	大町山岳博物館	平成 20 年	〃
ブルーガイド旅読本 上高地 安曇野 輝ける大地の自然と人	実業之日本社	平成 14 年	書店にて販売中
新･北アルプス博物誌	信濃毎日新聞社	平成 13 年	〃
ライチョウ 生活と飼育への挑戦	信濃毎日新聞社	平成 4 年	〃
カモシカ 氷河期を生きた動物	信濃毎日新聞社	平成 3 年	〃

4. インターネット・ウェブサイト

(1) 公式ウェブサイト（担当：千葉）

博物館の企画展やイベントをアップするほか、「今日の北アルプス」、「アニマルウォッチング」を毎日、更新した。また、『学芸員情報情報』は 15 の話題、『飼育員の奮闘記』は 26 の話題を提供した。

URL：http://www.city.omachi.nagano.jp/sanpaku/

(2) 安曇野アートラインウェブサイト（担当：宮野）

当館が加盟する安曇野アートライン推進協議会では、平成17年4月にウェブサイトを開設し、平成 18 年 9 月にサイトを充実させてリニューアルした。ここでは当館所蔵の山岳風景画など絵画を中心に紹介し、当館公式ウェブサイトとリンクさせて企画展やイベント情報などを随時発信している。

URL：http://azumino-artline.net /oomachi/

5. 広報

(1) 大町博物館連絡会発行博物館めぐり案内図（担当：降旗）

大町博物館連絡会は市内加盟館 11 館で構成されている。「おおまち博物館めぐり案内図」はＢ４縦カラーで平成 22 年 4 月に発行したものを、近隣のホテル・旅館や夏休み前に市内小学校に配布した。

(2) ポスター（担当：千葉）

博物館への誘客を目的に大町市観光協会ガラス面を利用して、博物館三階からの眺望を紹介したポスター（縦 420㎜×横 1800㎜）3 枚を掲示し、開館時間・料金・企画展開催日時の周知をしたが、7 月の観光協会の移転に伴い、終了した。

６.友の会（担当：宮野・清水隆寿）

大町山岳博物館友の会は大町山岳博物館を通して、会員の知識の向上をはかると共に、山岳博物館の種々の事業に協力することを目的で、自然観察会、例会・講演会、会報の発行、博物館の事業に参加し協力する団体である。

平成 23 年 1 月から事業・会計年度を 2 月 1 日から翌年の 1 月末日とした。

(1) 組織

①役員

a. 会　長　宮澤洋介

b. 副会長　有川美保子、西沢泰夫

c. 運営部　部長：有川美保子 部員：松坂美治子、山崎一彦、塩瀬淳也、栗林稔、宮田京子、西沢泰夫、川崎晃、丸山優子、関悟志、宮野順子

d. 編集部　部長：丸山卓哉　部員：宮澤洋介、木村節子、岑村隆、五十川渡

e. 事務局　仙波美代子(こまくさ担当)、宮野典夫、清水隆寿

f. アドバイザー　川崎裕子

g. 監　査　倉科恵一、越山頼子

h. 顧問　千葉彬司・長沢正彦

②構成（平成 23 年 3 月 31 日現在）

会員種別	会員数	会員種別	員数	会員種別	員数
ファミリー会員	307人(87ﾌｧﾐﾘｰ)	個人会員	57 人	学生会員	0 人
賛助会員	2 人	終身会員	3 人	名誉会員	3 人
合　計	372 人				

(2) 運営部

①行事

活動日	参加	主な内容
5 月 8～9 日	12 人	小鳥の声を聞く会　ふくろうプログラム(山岳総合センター)
7 月 18～19 日	12 人	夏の探検＆キャンプ　矢沢・鹿島川流域の探検
9 月 4～5 日	14 人	北アルプス登山　夏の自然観察会　白馬大池から小蓮華岳
10 月 23 日	20 人	塩の道を歩くX　来馬より南小谷へ・石坂越えルート
11 月 7 日	25 人	史跡・美術館・博物館めぐり　富山市科学博物館と氷見市を訪ねる
1 月 23 日	20 人	伝統技術を学ぶ　草木染に挑戦

(3) 編集部

①「ゆきつばき通信」の発行

号数	発行日	主 な 内 容
141	4 月 23 日	柳澤昭夫前館長を偲んで 行事案内…ふくろうプログラム、小鳥の声を聞く会、塩の道を歩く 報告…平成 21 年度友の会総会、講演会　他
142	7 月 3 日	行事案内…夏の探検＆キャンプ、北アルプス登山　夏の自然観察会 報告…小鳥の声を聞く会、ふくろうプログラム、ボランティア活動
143	9 月 20 日	行事案内…塩の道を歩く、史跡・美術館・博物館めぐり 報告…夏の探検＆キャンプ、北アルプス登山夏の自然観察会、ボランティア活動
144	11 月 15 日	行事案内…伝統技術を学ぶ 報告…塩の道を歩く、史跡・美術館・博物館めぐり、ボランティア活動
145	1 月 13 日	行事案内…冬の自然観察とスノーシュートレッキング、総会と総会記念講演会

②編集部

刊行物名	発行日	主 な 内 容
ゆきつばき 第 39 号	3月 13 日	友の会ひろば…行事参加者の感想 追悼…柳澤昭夫さん 三角点…会員の投稿、雑感

(4) 喫茶「こまくさ」の営業

営業期間は平成 22 年 4 月 12 日(日)～平成 22 年 11 月 3 日(火・祝日)

1 階ホール隣での飲み物及び物品販売のサービス提供

(5) サークル活動

①烏帽子の会

山歩きのサークル。「連れていってもらう登山」ではなく「連れていく山行」、「次はどの山に行こう」という雰囲気で身近な山に登るサークル。平成 23 年 3 月末日、サークル会員は 26 名。

月　日	内　　容	参加	月　日	内　　容	参加
1 月 30 日(土)	大峰高原(池田町)	13 人	10 月 2 日(土)	五地蔵山(長野市)	8 人
3 月 6 日(土)	乗鞍高原(松本市)	12 人	11 月 13･14 日(土･日)	南鷹狩山	14 人
5 月 22 日(土)	旧篠ノ井線廃線跡 (安曇野市)	11 人	1 月 15 日(土)	日向山 (山梨県北杜市)	13 人
7 月 10 日(土)	八島高層高原ほか	10 人			

②大町山岳博物館友の会ボランティアサークル

山岳博物館の活動への支援するグループとして平成 22 年よりスタート。山歩きのサークル。平成 23 年 3 月末日、サークル会員は 48 名。

月　日	内　　容	参加
4 月 11 日(日)	サクラソウの植替え	11 人
4 月 29 日(木)	サクラソウの運搬(博物館→市役所)	8 人
5 月 8 日(土)	小鳥の声を聞く会の豚汁作り準備	3 人
5 月 9 日(日)	小鳥の声を聞く会の豚汁再調理、配膳、片付け	2 人
5 月 16 日(日)	サクラソウの運搬(市役所→博物館)	10 人
6 月 6 日(日)	慎太郎祭植物観察会のサポート	4 人
6 月 27 日(日)	サクラソウの植替え、除草	11 人
8 月 28 日(土)	夜のミュージアムの会場設営、片付け	10 人
9 月 25 日(土)	キノコ学習会のキノコ汁準備、サクラソウの除草	9 人
9 月 26 日(日)	キノコ汁調理、配膳、片付け	4 人
10 月 24 日(日)	小熊山トレッキングガイド	4 人
1 月 30 日(日)	ボランティア講習会	11 人
3 月 5 日(土)	ボランティア講習会	15 人

7. ライチョウ会議（担当：清水博文）

(1) ライチョウ会議

平成 18 年 6 月 27 日より会議設置要綱を改正し、会議の活動目的を明確にした。構成員にはライチョウに関わる国・県の行政担当課をはじめ、富山雷鳥研究会・静岡ライチョウ研究会などライチョウ保護関係団体との意見交換の場として機能されている。また、大町市（市立大町山岳博物館）は昨年度に引き続き事務局を委嘱されている。

(2) 第 11 回ライチョウ会議石川大会

ライチョウ会議石川大会は、国内研究者・行政関係者・環境ＮＧＯ等が集まり、ライチョウに関する調査・研究の充実と現状の把握、具体的な保護活動の検討などライチョウについての知見を深め、野生動植物の保護・自然環境保全の啓発を目的として開催された。平成 22 年 11 月 13～14 日の 2 日間、石川県政記念　しいのき迎賓館において行政・研究者、一般市民等のべ 244 人が参加した。

「白山にライチョウはよみがえるか」を開催テーマとして、「白山の自然とライチョウ」・「ライチョウの生息地からの報告」・「ライチョウの生息域外保全の取り組み」・「公開シンポジウム」の４部構成で行われた。ライチョウの生息域外保全への取り組みについては、研究者間での考え方に違いもあり、慎重な論議が必要であるとともに、再導入などを行うにあたっては、生息環境の精査と地元住民との合意形成が最重要である。野外生態調査については、調査山岳による違いが見られるなどから、今後多くの山域での調査の必要性があるなど活発な意見が出された。平成 23 年に開催予定の第 12 回ライチョウ会議長野大会は、信州野鳥の会が中心となり準備を進めている。

8. ボランティア活動（担当：宮野）

博物館友の会にボランティアサークルが組織されたので友の会関係は除く

月　日	内　容	個人･団体名	参加者
4 月 29 日(木)	博物館周辺清掃活動	天理教	約 80 人
4 月 29(水)･30 日(木)･5 月 2 日(土)	春の写生大会指導	荒井泰三	10 人
7 月 14 日(火)	博物館周辺草刈及び清掃活動	有明高原寮	27 人

（敬称省略）

Ⅳ　動植物飼育栽培繁殖事業

1．動物飼育繁殖（担当：清水博文、飯島、小嶋、戸谷）

付属園の今後のあり方については、博物館全体の中の事業としての位置づけ、施設の老朽化、ライチョウの生息域外保全（低地飼育）事業の凍結等多くの課題を抱えている。今後の事業展開の方向性に関しては、市民意見を反映させるため協議会からいただいた意見など教育委員会に諮った結果、当面の間は現状維持で事業を行うこととなった。

(1) 飼育動物

①飼育動物の増減

a．繁殖個体

・ニホンカモシカ

平成 22 年 6 月 9 日　愛称オタリ（メス）とハクバ（オス）（共に保護個体）の間に生まれたメス個体（自然繁殖)。名前を公募した結果「れんげ」に命名された。

b．死亡個体（傷病鳥獣として救護した個体は除く）

・シベリアオオヤマネコ

平成 3 年 10 月 30 日にオーストリア　アルペン動物園より寄贈されたオス個体（愛称アイガー）は平成 22 年 11 月 15 日に敗血症、肺胸膜炎により死亡した。

c．今後の計画

ニホンカモシカについては、新たな野外個体の導入が困難なことから、若い個体の確保を目的として保護収容個体を用い繁殖計画を行いたい。今後も友好提携を結んでいるアルペン動物園との交換動物をふまえて、国内動物園間でブリーディングローン等も行いたい（現在、ブリーディングローンとして富山ファミリーパークと、埼玉県こども動物自然公園に各 1 個体貸出し中)。

②飼育動物（平成 23 年 3 月 31 日現在）

種　名	雄	雌	不明	計	種　名	雄	雌	不明	計
ホンドタヌキ	(1)	1		2	カルガモ			(1)	(1)
ホンドキツネ	(1)			(1)	マガモ	(1)			(1)
ハクビシン	(2)	(1)		(3)	モズ			(1)	(1)
ニホンカモシカ	2(2)	4(1)		6(3)	トビ		(1)	(7)	(8)
					チョウゲンボウ	(1)	(1)		(2)
					ニホンキジ	1(1)	2(1)		3(2)
					キジバト			(3)	(3)
					オオコノハズク			(1)	(1)
					フクロウ			(1)	(1)
計	2(6)	5(2)		8(7)	計	1(3)	2(3)	(14)	3(20)

哺乳類 2（4）種・鳥類 1（9）種　　合計 3（13）種 11（27）個体

※（N）の数は保護動物

上記の他、身近な生き物を紹介するために、博物館ホール・付属園内においてイモリなど両生類・爬虫類のほか、スズムシなどの昆虫類を各生物の活動時期に合わせて水槽などを用いた

展示を行った。

（2）傷病鳥獣保護

長野県より平成 22 年度野生傷病鳥獣救護事業委託として、大町市および近隣市町村をにおける野性傷病鳥獣救護施設のひとつとして保護動物を受け入れている。

①収容個体数

哺乳類　3（3）種　4（7）個体

（ニホンカモシカ 2(3)・ホンドタヌキ 1・ハクビシン(3)・ホンドキツネ(1)・アブラコウモリ 1）

鳥類　13(8)種　17(16)個体

（トビ 1(7)・チョウゲンボウ(2)・ニホンキジ(2)・キジバト 2(1)・オオコノハズク(1)・フクロウ(1)・カルガモ 1(1)・マガモ（1）・カモ SP1・カワラヒワ１・アカショウビン 1・スズメ 1･ツバメ３・イワツバメ２・アオゲラ 1・モズ 1・アオジ 1・オオミズナギドリ 1）

合計 17(16)個体

（そのうち死亡個体 10・放鳥獣個体 7・他施設への転出個体 0・現在飼育中個体 4(16)）

※（N）の数は前年度からの継続依頼個体である。

②所見

死亡個体のほとんどは、収容時には処置を行っても手遅れまたは、重症の個体であり保護収容当日か数日後に死亡している。このような傾向は過去の実績からも顕著であり、早期における獣医師の処置が不可欠であると考えられる。また、半年以上収容した個体は疾病が完治しても餌付いてしまうことも多く、人工保育で育てた個体と同様、野外に復帰させることが困難となり、長期収容個体となる傾向がみられる。

2．植物栽培繁殖（担当：千葉）

（1）栽培植物

①栽培植物の増減

増減：なし

②栽培植物

コマクサ、フクジュソウ、サクラソウ、ササユリ、ビッチュウフウロ、アズミノヘラオモダカ、イヤリトリカブト、オオシラヒゲソウ、コオニユリ、カキツバタ、クサレダマ、ミズオトギリ、エゾミソハギ、トキソウ・ミズバショウ、リュウキンカ、サワオグルマ、サワギキョウ、アカバナ

③概要

山岳博物館友の会ボランティアの協力を得て、恒例となったサクラソウの栽培展示を市役所前で 4 月 30 日～5 月 15 日まで行った。

また、ボランティアの協力を得て植物の植え替えおよび除草などを随時行った。

Ⅴ　その他

1．各種委員などの委嘱

大町博物館連絡会・会長（宮野）
北アルプス北部地区山岳遭難防止対策協会・参与（宮野）
高山植物等保護対策協議会中信地区・理事（宮野）
大町市観光協会・理事（宮野）
長野県科学振興会大町支部・理事（千葉）
栂池自然園地域保全委員会委員・委員長（宮野）
ライチョウ会議構成員（宮野）
慎太郎祭実行委員（宮野、千葉）
桜まつり実行委員（宮野）
北アルプス雪形まつり実行委員（清水隆寿）

2．アルペン動物園との友好提携協定の締結

昭和 60 年 2 月 18 日、オーストリア・インスブルック市のアルペン動物園と当館は、次のような目的による友好提携協定について締結をした。
「同じような自然環境に囲まれたインスブルックと大町両市の市長は、その締結を大いに歓迎し、また両市民は文化をはじめさまざまな分野において、緊密な交流をはかり、それを通じて相互信頼と友好を深め、将来にわたって、インスブルック市と大町市の繁栄と幸福のために貢献する。」（同協定書より抜粋）

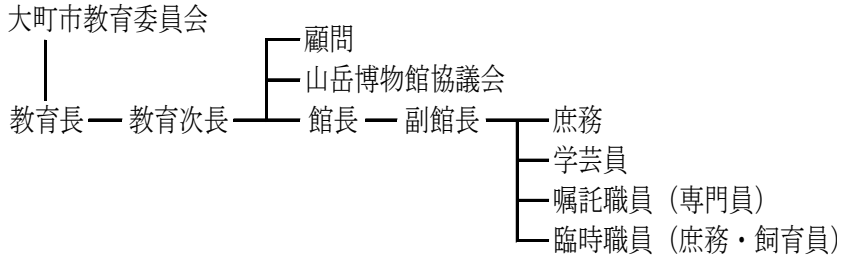
3．信州大学山岳科学総合研究所との研究協力協定の締結

平成 17 年 7 月 5 日、信州大学山岳総合研究所と当館は、次のような目的による研究協力協定について締結をした。
「山岳および大町市とその周辺地方の民俗、歴史などの資料を収集、保管、展示し一般の観覧に供し、本邦における山岳文化などの普及並びに調査研究を行う市立大町山岳博物館と、信州の自然と社会をフィールドとして、山岳及びそれに連なる里山における自然と人間の相互関係にかかわる諸問題の解決を目指した研究を行い、新しい学問領域「山岳科学」を創造しようとする信州大学山岳科学総合研究所は、相互の連携の意義を深く認識し、自然と人間の共生の諸課題探求に力をあわせて貢献するため、ここに研究協力協定を締結する。」（同協定書より抜粋）

Ⅵ　運営

1．組織および職員構成

（1）組織



（2）顧問

千葉彬司

（3）協議会委員

学校教育関係者：木我直由

社会教育関係者：横川仁、松原繁、鈴木啓助

学識経験者：藤沢秀、宮澤洋介、今滝一登美、森一弘、湯澤将憲、佐藤悟、高田正樹、宮崎亮

（4）職員

①配置

館　長　宮野典夫

副館長　降旗孝浩（庶務兼務）

学芸員　清水隆寿（人文科学系）　清水博文、千葉悟志（自然科学系）

臨時職員　北村洋子（庶務）　飯島志津、小嶋健太、戸谷諭美（動物飼育）

②人事異動

昇　格　館長・宮野典夫（平成 22 年 4 月 1 日）

転　入　副館長・降旗孝浩（平成 22 年 4 月 1 日）

新　規　専門員・小坂共栄（平成 22 年 6 月 1 日～）

　　庶務（臨時職員）　北村洋子（平成 22 年 10 月 1 日～）

退　職　動物飼育員（臨時職員）　飯島志津（平成 23 年 3 月 30 日）

　　庶務（臨時職員）　北村洋子（平成 23 年 3 月 30 日）

2．協議会

（1）第 1 回協議会

①**日時**：平成 22 年 11 月 18 日（木）10：00～11：30

②**場所**：山岳博物館　講堂

出席者：藤沢秀、木我直由、宮澤洋介、松原繁、鈴木啓助、湯浅将憲、高田正樹、宮崎亮

③**内容**：・報告

平成 22 年度の事業報告

創立 60 周年を契機とした今後の山岳博物館について。

・協議

山岳博物館創立 60 周年事業について

（仮称）山岳図書資料館の建設について

大町市観光審議会委員の選出について、松原委員に決定

3. 入館者状況

(1) 過去の入館者状況

（単位：人）

年度	有料入館者							無料入館者			
	個人			団体			計	一般減免	市内		計
	大人	高校生	小中生	大人	高校生	小中生			65歳以上	小中生	
昭和26	291		100	21		77	489				
27	2,425		1,022	186		1,514	5,147				
28	8,922		2,229	725		1,216	13,092				
29	7,779		1,831	625		1,189	11,424				
30	6,831		1,664	1,445		945	10,885				
31	2,148		888	1,036		858	4,930				
32	1,934		658	826		1,880	5,298				
33	2,979		1,032	1,469		2,417	7,897				
34	2,972		626	1,727		1,788	7,113				
35	3,635		878	1,943		2,143	8,599				
36	4,181		1,329	2,132		2,521	10,163				
37	5,313		1,633	4,549		2,748	14,243				
38	6,394		1,854	4,727		2,918	15,893				
39	10,464		1,658	12,600		1,520	26,242				
40	14,214		1,696	8,050		1,600	25,560				
41	10,399		1,711	13,070		1,500	26,680				
42	12,891		1,649	8,301		3,059	25,900				
43	18,458		2,071	17,769		3,240	41,538				
44	16,273		2,100	10,845		3,749	32,967				
45	13,405		1,941	11,623		3,960	30,929				
46	18,414		3,001	14,718		3,193	39,326				
47	17,500		3,025	13,268		6,877	40,670				
48	25,809		4,178	22,612		5,774	58,373				
49	28,702		4,277	23,432		5,843	62,254				
50	32,345		4,896	23,616		6,835	67,692				
51	32,111		5,142	25,150		8,200	70,603				
52	26,155		4,311	18,907		5,327	54,700				
53	26,346		4,158	24,903		8,722	64,129				
54	27,769		4,485	25,089		6,600	63,943				
55	25,743		4,414	19,909		6,972	57,038				
56	31,697		7,558	16,182		9,695	65,132				
57	31,894	809	6,400	10,391	5,827	6,929	62,250	7,965			7,965
58	33,590	988	6,632	15,885	7,992	12,303	77,390	9,026			9,026
59	30,335	816	5,905	12,969	9,172	15,070	74,267	8,117			8,117
60	36,686	1,142	8,025	22,782	8,559	15,902	93,096	6,770			6,770
61	34,797	1,086	6,109	16,001	8,107	16,069	82,169	4,509			4,509
62	33,132	918	5,581	18,751	7,065	17,186	82,633	3,605			3,605
63	36,116	841	5,932	14,947	6,085	14,735	78,656	6,269			6,269
平成元	41,018	1,199	6,450	13,191	4,650	10,527	77,035	3,709			3,709
2	43,444	1,108	6,752	16,486	3,045	7,119	77,954	4,844			4,844
3	47,004	1,276	7,313	13,817	4,212	8,278	81,900	4,577			4,577

年度	有料入館者							無料入館者			
	個人			団体			計	一般減免	市内		計
	大人	高校生	小中生	大人	高校生	小中生			65歳以上	小中	
4	42,197	725	5,719	13,068	1,687	7,015	70,411	3,413			3,413
5	45,182	809	5,807	12,249	2,807	5,325	72,179	3,587			3,587
6	38,354	933	4,809	10,561	1,932	4,974	61,563	3,376			3,376
7	37,356	981	4,650	9,493	1,840	4,164	58,484	5,376			5,376
8	36,002	869	4,189	6,601	1,905	2,244	51,810	2,174			2,174
9	31,119	626	3,417	7,626	1,245	2,100	46,143	1,429			1,429
10	28,219	637	3,105	6,023	764	2,006	40,754	1,686			1,686
11	24,220	482	2,200	4,766	561	1,183	33,412	1,206			1,206
12	23,082	501	2,273	5,344	648	1,024	32,872	1,187			1,187
13	24,064	439	2,163	3,389	671	1,577	32,303	1,497	387	826	2,710
14	20,527	472	1,744	2,518	675	808	26,744	1,013	191	451	1,655
15	19,693	535	2,152	2,184	785	1,082	26,431	990	285	616	1,891
16	14,664	376	1,073	2,875	602	644	20,234	604	51	662	1,317
17	12,065	213	630	3,138	692	928	17,666	1011	97	491	1,599
18	14,056	135	996	3,120	545	1,836	20,688	1,825	162	688	2,675
19	10,991	120	742	2,401	407	1,037	15,698	1,087	94	693	1,874
20	11,532	130	803	2,766	381	578	16,190	1,518	188	619	2,325
21	11,269	100	704	3,055	61	1,098	16,287	1,164	143	348	1,655
22	9,578	103	594	2,665	466	467	13,873	955	116	203	1,274

(2) 平成 22 年度の入館者状況

（単位：人）

月	有料入館者							無料入館者			計
	個人			団体			小 計	一般減免	市内		
	大人	高校生	小中生	大人	高校生	小中生			65歳以上	小中生	
4	801	8	19	163	0	6	997	52	1	11	1,061
5	1,676	13	86	338	3	18	2,134	222	33	155	2,544
6	656	0	18	105	0	113	892	40	0	8	940
7	876	25	67	270	456	11	1,705	61	0	0	1,766
8	1,784	42	280	495	6	260	2,867	182	1	18	3,068
9	932	2	24	322	1	10	1,291	54	7	2	1,354
10	1,128	1	30	548	0	31	1,738	166	24	1	1,929
11	770	3	17	239	0	5	1,034	99	6	1	1,140
12	232	3	9	32	0	0	276	11	7	1	295
1	132	1	9	30	0	1	173	5	17	2	197
2	325	0	15	67	0	3	410	21	10	2	443
3	266	5	20	56	0	9	356	42	10	2	410
合計	9,578	103	594	2,665	466	467	13,873	955	116	203	15,147
前年度計	11,269	100	704	3,055	61	1,098	16,287	1,162	146	348	17,948
前年度比	85.0%	103.0%	84.4%	87.2%	763.9%	42.5%	85.2%	82.2%	79.5%	58.3%	84.4%

(3) 平成 22 年度の開館日数

316 日

4. 平成 22 年度予算・決算

(1) 歳入　　（単位：円）

項　目	観覧料	望遠鏡使用料	県委託金	寄付金	雑　入	計
当初予算	7,528,000	100,000	200,000	1,000,000	846,000	9,674,000
決算額	5,927,600	74,400	191,000	1,000,000	767,787	7,960,787
	△1,600,400	△25,600	△9,000	0	△78,213	△1,713,231

(2) 歳出

項目	一般職員人件費	博物館管理運営一般経費	教育普及事業	調査研究事業	資料収集保管事業
当初予算	33,268,000	16,233,000	4,034,000	535,000	616,000
決算額	33,694,150	12,717,251	3,806,616	351,059	568,772
	426,150	△3,515,749	△227,384	△183,941	△47,228

項目	動植物飼育栽培事業	山岳博物館展示改修事業	付属園整備事業	繰越明許費付属園整備事業	計
当初予算	8,186,000	1,061,000	0	0	63,933,000
決算額	7,854,815	1,751,209	8,851,500	1,566,500	71,161,872
	△331,185	690,209	8,851,500	1,566,500	7,228,872

Ⅶ　関係条例規則

1．市立大町山岳博物館条例

昭和 57 年 3 月 29 日
条例第 12 号

改正　昭和 61 年 3 月 24 日条例第 8 号　　平成元年 3 月 24 日条例第 7 号
平成 4 年 3 月 31 日条例第 8 号　　平成 5 年 12 月 24 日条例第 32 号
平成 12 年 3 月 29 日条例第 13 号　平成 13 年 3 月 27 日条例第 13 号

市立大町山岳博物館条例（昭和 29 年条例第 18 号）の全部を改正する。

（目的）

第 1 条　この条例は、博物館法（昭和 26 年法律第 285 号。以下「法」という）第 18 条及び地　方自治法（昭和 22 年法律第 67 号）第 244 条の 2 第 1 項の規定に基づき、市立大町山岳博物　館（以下「博物館」という）の設置及び管理運営に関し、必要な事項を定めることを目的と　する。

（設置）

第 2 条　山岳に関する資料並びにこの地方における民俗、歴史その他の資料を収集して、保管　又は展示し、一般の観覧に供し、本邦における山岳文化等の普及並びにこれらの資料の調査　研究を行うため博物館を設置する。

（名称及び位置）

第 3 条　博物館の名称及び位置は、次のとおりとする。

市立大町山岳博物館　大町市大町 8056 番地 1

（職員）

第 4 条　法第 4 条の規定による館長、学芸員のほか必要な職員を置く。

2　必要に応じ顧問及び嘱託員を置くことができる。

（観覧料）

第 5 条　博物館を観覧しようとする者は、別表第 1 に定める観覧料を納付しなければならない。　ただし、次に掲げる者は、この限りでない。

(1) 6 歳未満の者
(2) 市内の小学校及び中学校に在学する児童又は生徒
(3) 市内に住所を有する満 65 歳以上の者

（使用料）

第 6 条　博物館の設備使用料は、別表第 2 に定めるとおりとする。

（観覧料の減免）

第 7 条　大町市教育委員会（以下「教育委員会」という）は、特別な理由があると認めるとき　は、観覧料を減免することができる。

（資料の特別利用）

第 8 条　博物館資料を学術研究等のため特に利用しようとする者は、教育委員会の承認を受け　なければならない。

（賠償責任）

第 9 条　故意又は過失により、博物館の資料、施設等を破損し、又は滅失したときは、教育委　員会の命ずるところにより、これを原状に復し、又は損害を賠償しなければならない。

（博物館協議会）

第 10 条　法第 22 条の規定により、市立大町山岳博物館協議会（以下「協議会」という）を設　置する。

2　協議会の委員（以下「委員」という）の数は、15 人以内とし、教育委員会が委嘱する。

3　委員の任期は、2 年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（委任）

第 11 条　この条例に定めるもののほか必要な事項は、教育委員会が別に定める。

附　則
1　この条例は、昭和57年6月5日から施行する。
2　この条例施行の際、現に市立大町山岳博物館条例（昭和29年条例第18号）第5条の規定に　より委員として委嘱された者は、この条例第10条の規定により委嘱されたものとみなし、任期は、同条第3項の規定にかかわらず、昭和58年3月31日までとする。
附　則（昭和61年3月24日条例第8号）
この条例は、昭和61年4月1日から施行する。
附　則（平成元年3月24日条例第7号）
この条例は、平成元年4月1日から施行する。
附　則（平成4年3月31日条例第8号）
この条例は、平成4年4月1日から施行する。
附　則（平成5年12月24日条例第32号）
この条例は、平成6年4月1日から施行する。
附　則（平成12年3月29月条例第13号）
この条例は、平成12年4月1日から施行する。
附　則（平成13年3月27日条例第13号）
この条例は、平成13年4月1日から施行する。
附　則′（平成17年12月6日条例第30号）
この条例は、平成18年1月1日から施行する。

別表第1（第5条関係）

種別	区分	単位	観覧料
一般	大人	1人	400円
	高校生	〃	300
	小人	〃	200
団体 （30人以上の場合をいう）	大人	〃	350
	高校生	〃	250
	小人	〃	150

備考　特別の資料を展示する場合は、1,000 円の範囲内においてその都度教育委員会が定める額とする。

別表第2（第6条関係）

望遠鏡使用料	1回	100円

2. 市立大町山岳博物館規則

昭和 57 年 3 月 30 日
教育委員会規則第 3 号

改正　平成元年 3 月 31 日教委規則第 3 号　平成 9 年 12 月 26 日教委規則第 3 号
平成 12 年 3 月 30 日教委規則第 9 号

（趣旨）
第 1 条　地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）第 33 条第 1 項及び市立大町山岳博物館条例（昭和 57 年条例第 12 号。以下「条例」という）第 11 条の規定に基づき、市立大町山岳博物館（以下「博物館」という）の管理運営並びに市立大町山岳博物館協議会（以下「協議会」という）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。
（職務）
第 2 条　館長は、上司の命を受け、館を統括し、所属職員を指揮監督する。
2　学芸員は、館長の命を受け、博物館法（昭和 26 年法律第 285 号）第 4 条第 4 項に規定する職務を遂行する。
3　その他の職員は、館長の命を受け、職務を遂行する。
4　館長を補佐するため、副館長を置くことができる。副館長は、係長相当職をもって充てる。
5　嘱託員は、学術に関する職務に従事する。
（休館日）
第 3 条　博物館の休館日は、次のとおりとする。ただし、臨時に開館又は休館することができる。
(1)　毎週月曜日
(2)　国民の祝日に関する法律（昭和 23 年法律第 178 号）に規定する休日の翌日（この日が月曜日に当たるときは、その翌日）
(3)　12 月 29 日から翌年 1 月 3 日までの日（前号に掲げる日を除く）
（開館時間）
第 4 条　博物館の開館時間は、午前 9 時から午後 5 時までとする。ただし、教育委員会が特に必要と認めたときは、これを変更することができる。
（観覧券の交付）
第 5 条　条例第 5 条の規定による観覧料の納付があったときは、観覧券（様式第 1 号）に領収印を押印し、交付するものとする。
（観覧料の減免）
第 6 条　条例第 7 条の規定による観覧料の減免を受けようとする者は、博物館観覧料減免申請書（様式第 2 号）を教育委員会に提出し、承認を得なければならない。
（博物館資料の利用等）
第 7 条　条例第 8 条の規定により博物館の資料を利用しようとする者は、市立大町山岳博物館資料特別利用許可申請書（様式第 3 号）を教育委員会に提出し、承認を得なければならない。
2　前項の規定による資料の利用期間は、30 日以内とする。ただし、教育委員会が必要と認めた場合は、延長することができる。
（入館制限等）
第 8 条　教育委員会は、次の一に該当するときは、入館を拒否し、退館を命じ、又は許可を取り消し、その他必要な措置を講ずることができる。
(1)　公の秩序又は善良な風俗を害するおそれがあると認められるとき。
(2)　管理上支障があると認められるとき。
(3)　その他教育委員会が必要と認めるとき。
（資料の寄贈及び寄託）
第 9 条　博物館は、資料の寄贈及び寄託を受けることができる。資料を寄贈及び寄託しようとする者は、博物館資料寄贈・寄託書（様式第 4 号）を教育委員会に提出するものとする。
2　寄託を受けた博物館資料は、寄託者の請求によりこれを返還する。
3　博物館は、寄託を受けた博物館資料が災害その他不可抗力によって滅失又は損傷した場合は、損害

賠償の責を負わない。
4　寄贈又は寄託を受けた博物館資料は、一般の資料と同一の取扱いをするものとする。
（資料等の滅失・損傷）
第10条　館長は、博物館の資料、施設等が滅失又は損傷したときは、速やかに教育委員会に報告し、その指示を受けなければならない。
（協議会の組織）
第11条　協議会に、委員の互選による会長及び副会長各１名を置く。
2　会長は、会務を総理し、会議の議長となる。
3　副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。
（協議会の会議）
第12条　協議会の会議は、館長の諮問により会長が招集する。
2　協議会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。
3　会議の議決は、出席委員の過半数の賛成がなければならない。

附　則
1　この規則は、昭和57年6月5日から施行する。
2　市立大町山岳博物館規程（昭和29年教育委員会規則第9号）及び市立大町山岳博物館協議会規程（昭和29年山岳博物館規程第1号）は、廃止する。
附　則（平成元年3月31日教委規則第3号）
この規則は、平成元年4月1日から施行する。
附　則（平成9年12月26日教委規則第3号）
この規則は、平成10年1月1日から施行する。
附　則（平成12年3月30日教委規則第9号）
この規則は、平成12年4月1日から施行する。
様式（省略）

3．大町市ライチョウ保護事業計画策定委員会設置要綱

平成 17 年 7 月 7 日
教育委員会告示第 8 号

（趣旨）
第 1　大町市におけるライチョウ保護事業の計画を策定するため、大町市ライチョウ保護事業計画策定委員会（以下「委員会」という。）を設置する。
（所掌事務）
第 2　委員会は、ライチョウの保護事業に関する計画の策定及びその他計画策定上必要な事項を検討するものとする。
（組織）
第 3　委員会は、委員 10 人以内で組織し、学識経験を有する者のうちから教育委員会が委嘱する。
（任期）
第 4　委員の任期は、ライチョウ保護事業計画の策定業務が終了するまでとする。
第 5　委員会に委員長及び副委員長各 1 人を置き、委員が互選する。
２　委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。
３　副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。
（オブザーバー）
第 6　委員会にオブザーバーを置くことができる。
２　オブザーバーは、ライチョウの保護事業に関し、必要な意見を述べることができる。
（会議）
第 7　委員会の会議は、委員長が招集し、議長となる。
２　委員長は、必要があると認めるときは、委員以外の者を会議に出席させ、意見を求めることができる。
（事務局）
第 8　委員会の事務局は、市立大町山岳博物館に置く。
（補則）
第 9　この要綱に定めるもののほか必要な事項は、別に定める。
附　則
この告示は、告示の日から施行する。

Ⅷ　施設

1．敷地面積

39,875.92 ㎡

2．本館建物

(1) 構　造：鉄筋コンクリート　地上3階 地下1階
(2) 竣　工：昭和57年5月31日竣工
(3) 延べ床面積：2,207.0 ㎡
(4) 床面積表　（単位：㎡）

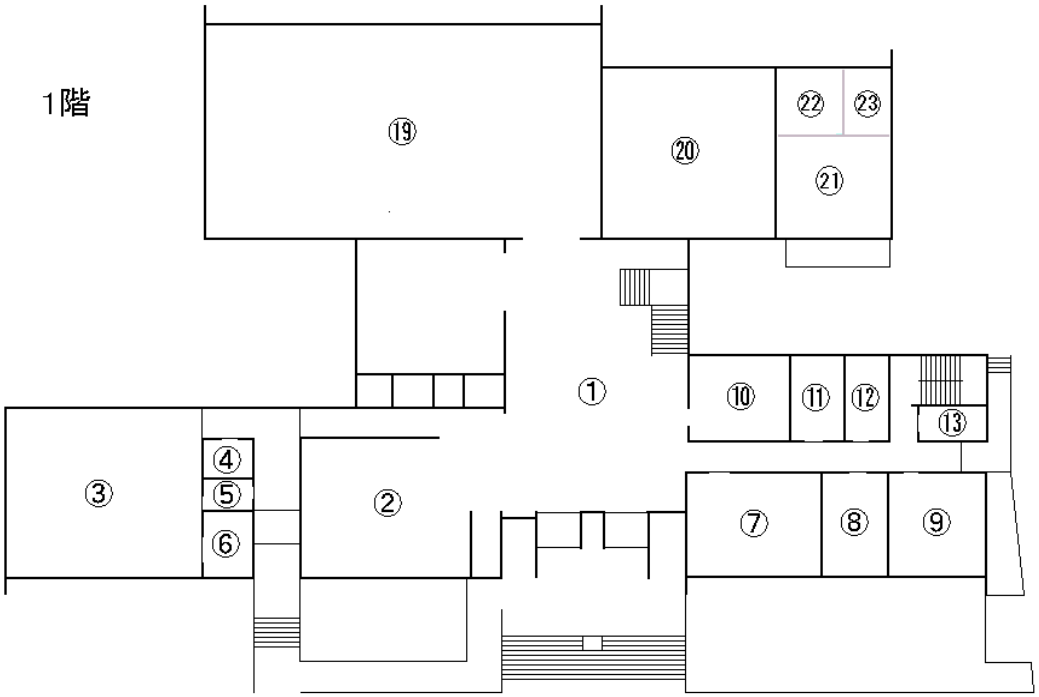
名称および面積	名称および面積	名称および面積	名称および面積
1階　1244.9	⑬倉 庫　8.8	2階　686.1	3階　116.8
①ホール　205.5	⑭E. V　5.1	㉔ﾚｸﾁｬｰｽﾍﾟｰｽ　113.6	㉜展望室　94.6
②喫茶　74.2	⑮給湯室　3.0	㉕研究室　69.6	その他(階段)　86.9
③講 堂　110.2	⑯倉 庫　3.5	㉖図書室　34.8	
④便 所　8.1	⑰EV機械室　6.0	㉗倉 庫　16.0	地階　159.2
⑤映写室　5.4	⑱特別展示室　70.4	㉘収蔵庫　42.1	㉝機械室　118.8
⑥準備室　9.1	⑲第1展示室　290.0	㉙便 所　18.2	㉞車 庫　23.0
⑦事務室　51.0	⑳収蔵庫　104.0	㉚第2展示室　290.0	その他(階段)　17.4
⑧館長室　18.6	㉑荷解・作業室　41.3	㉛ﾊﾟｯｹｰｼﾞ室　14.9	
⑨宿直室　32.5	㉒ﾊﾟｯｹｰｼﾞ室　16.4	その他(廊下、階段)	
⑩便 所　29.0	㉓燻蒸室　12.3	86.9	
⑪書 庫　16.7	その他(廊下、階段)		
⑫更衣室　14.6	109.2		

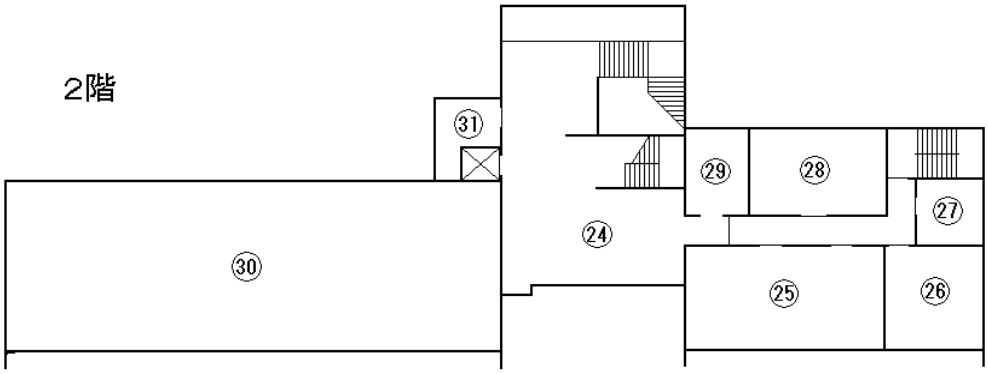
3．付属施設

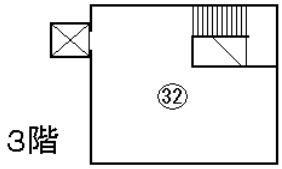
(1) 付属園（本館隣）の建物（建設年度順）

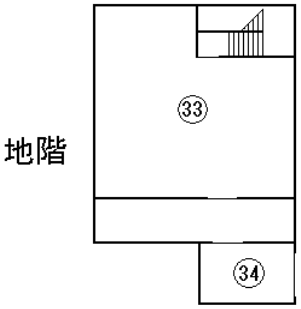
施設名および面積(築年度)		施設名および面積(築年度)		施設名および面積(築年度)	
A-1	33.44 (S42,43)	B-4	39.63 (S54,55)	B-7	46.5(S61)
A-3	15.24 (S48)	B-1	28.20 (S38)S55移設	B-8	26.92(H1)
A-5	33.44 (S49)	A-4	16.20 (S48)S55移設	B-9	34.83(H3,4)
A-6	42.85 (S49)	B-6	18.99(S61)	B-10	5.2 (H3)
A-7	20.26 (S51)	B-7	46.5(S61)	B-11	67.65(H4)
A-8	11.55 (S53)	B-8	26.92(H1)	B-12	44.88(H7)
B-3	22.62 (S53)	B-6	18.99(S61)	A-10	52.00(H21)

4. 本館平面図

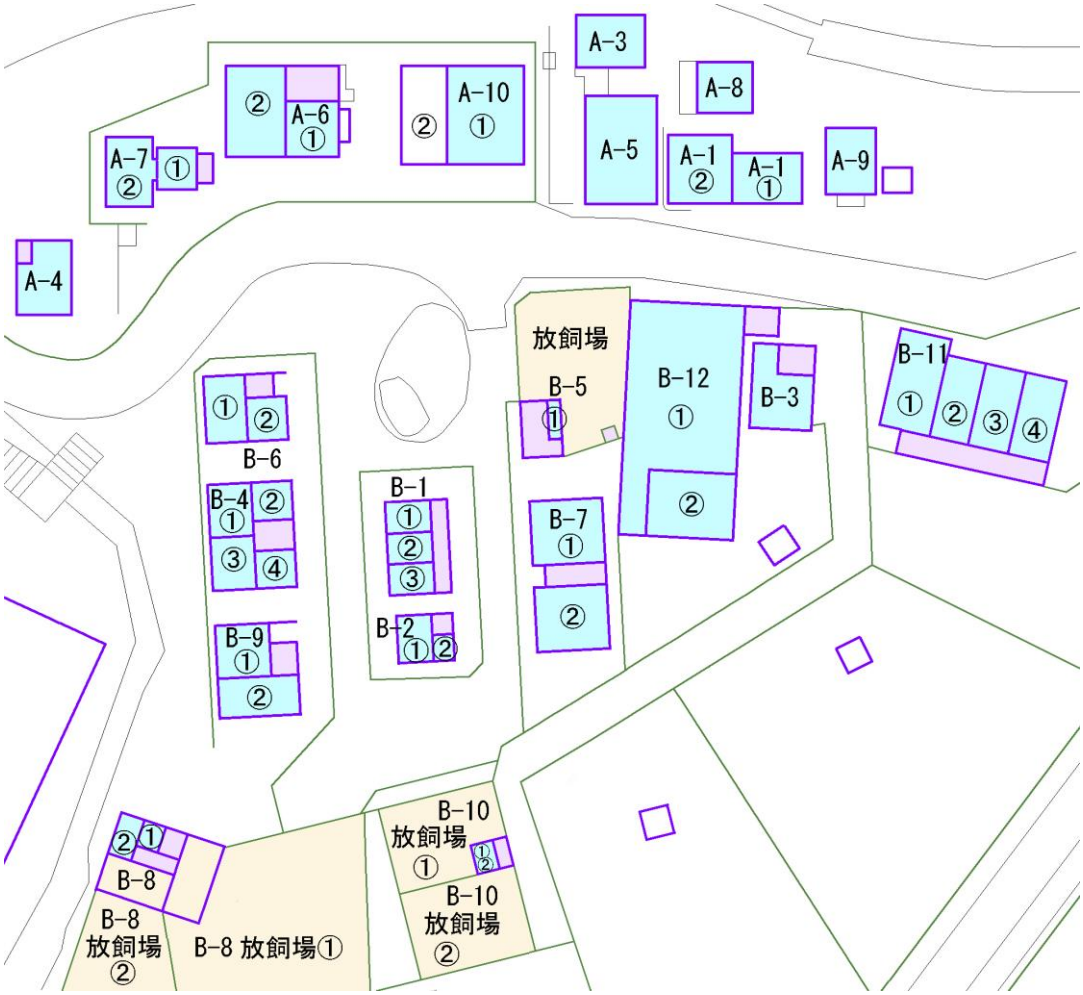








5. 付属園の建物図



Ⅸ　利用案内（平成 23 年 3 月 31 日現在）

1. 開館時間　午前 9 時～午後 5 時（入館は午後 4 時 30 分まで）
2. 休館日　毎週月曜日、国民の祝日・振替休日の翌日、年末年始（12 月 29 日～1 月 3 日）
   ※月曜日が祝日・休日の場合は開館し、翌日休館　7 月・8 月は無休
3. 交通　公共機関　JR 信濃大町駅から　タクシーで 5 分、歩いて 25 分
   車　長野自動車道豊科 IC から 40 分
   （北アルプスパノラマロード経由 白馬方面へ 28 km）
   ※博物館前に無料駐車場（普通車 30 台・大型バス 5 台収容）
4. 観覧料

区　分	大　人	高校生	小・中学生
個　人	400 円	300 円	200 円
団　体（30 名様以上）	350 円	250 円	150 円

5. ユニバーサルデザイン
   入口スロープ、車イス用トイレ、車イス対応エレベーター、貸出用車イス・ベビーカー、ベビーベッド、点訳版パンフレット、アシスタントドッグ同伴可能
6. 所在地および連絡先
   〒398-0002　長野県大町市大町 8056－1
   （標高：766m、経緯：北緯 36 度 30 分、東経 137 度 52 分）
   TEL：0261-22-0211／FAX：0261-21-2133
   E-mail：sanpaku@city.omachi.nagano.jp
   URL：http://www.city.omachi.nagano.jp/sanpaku/

市立大町山岳博物館　平成 22 年度 年報
平成 24 年1月 31 日発行
編集･発行　市立大町山岳博物館
〒398-0002 長野県大町市大町 8056-1
TEL:0261-22-0211/FAX:0261-21-2133
印刷･製本　北辰印刷
〒398-0002 長野県大町市大町 3871-1
TEL:0261-22-3030/FAX:0261-22-2010

この印刷物は再生紙を使用し、石油溶剤の代わりに大豆油を使用した大豆インキで印刷しています。